

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 5 部門第 3 区分
【発行日】平成 24 年 9 月 6 日 (2012.9.6)

【公開番号】特開 2012-52674 (P2012-52674A)
【公開日】平成 24 年 3 月 15 日 (2012.3.15)
【年通号数】公開・登録公報 2012-011
【出願番号】特願 2010-193064 (P2010-193064)
【国際特許分類】

F 2 4 H 9/00 (2006.01)

F 2 4 H 1/18 (2006.01)

【F I】

F 2 4 H 9/00 E

F 2 4 H 1/18 A

【手続補正書】
【提出日】平成 24 年 6 月 27 日 (2012.6.27)

【手続補正 1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

タンクと、該タンクの外側に配置される真空断熱材とを備え、
前記真空断熱材は、芯材と、該芯材を真空状態で包む包材とを備えて構成され、前記包材は、前記芯材を密閉する密閉部を周囲に有し、
前記真空断熱材は、密閉部が芯材側に折り返された状態で前記タンクの外側に配置され、密閉部が折り返された真空断熱材の端縁部を少なくとも覆うように、真空断熱材とは異なる材質によって構成される被覆断熱材が配置されることを特徴とする給湯機。

【請求項 2】

前記真空断熱材は、密閉部をタンクとは反対側に折り返されることを特徴とする請求項 1 に記載の給湯機。

【請求項 3】

前記タンクと前記真空断熱材との間に、真空断熱材とは異なる材質によって構成される内側断熱材が配置されることを特徴とする請求項 1 に記載の給湯機。

【請求項 4】

複数の真空断熱材を端縁部同士を対向させて配置し、
各真空断熱材の端縁部に跨って前記被覆断熱材を配置することを特徴とする請求項 1 に記載の給湯機。

【請求項 5】

前記内側断熱材は、厚さ方向に凹む凹部を有し、
前記真空断熱材は、前記凹部の中に配置されることを特徴とする請求項 1 に記載の給湯機。

【請求項 6】

前記真空断熱材及び前記被覆断熱材によって覆われたタンクを収容する筐体を備え、
前記筐体によって前記被覆断熱材を真空断熱材の端縁部に押しつけることを特徴とする請求項 1 に記載の給湯機。

【請求項 7】

前記真空断熱材及び前記被覆断熱材によって覆われたタンクを収容する筐体を備え、

前記被覆断熱材は、前記真空断熱材の端縁部と前記筐体との間隔よりも厚く設定されることを特徴とする請求項 1 に記載の給湯機。

【請求項 8】

前記筐体のうち前記被覆断熱材と当接する当接部分には、筐体の内側に向かって突出する突出部が設けられることを特徴とする請求項 1 に記載の給湯機。

【請求項 9】

前記タンクは水平方向に沿う二辺のうち一辺が他辺よりも短い直方体形状を有し、
前記一辺を有する側面に配置される真空断熱材は、前記側面の一辺よりも幅が大きく形成されることを特徴とする請求項 1 に記載の給湯機。